

より、そう、ちから。

東北電力株執行役員山形支店長

阿部 雅宏 氏



今年6月、執行役員発電・販売カンパニー火力部長から着任しました。山形での勤務は初めてですが、蔵王をはじめ豊かな自然、さくらんぼに代表されるおいしい果物、なによりも穏やかな人たちが住

むゆったりとした土地、という印象を持っております。

私は仙台市に生れ、地元の高校、東北大学工学部機械工学科を卒業して1986年に東北電力に入社し、技術者として主に火力部門に在籍、社歴の半分は火力発電所勤務で、日本海に面した東新潟火力発電所（新潟県聖籠町）には3回、通算13年在籍していました。

その3回目の勤務は、東日本大震災が発生し3カ月後の2011年7月のことです。発生時、私は火力必修技術訓練センター（宮城県仙台市・仙台港）の所長でした。1カ月前に避難訓練を行っており、津波警報と同時に避難し全員無事でしたが、津波で建物1階部分は流失、隣の工場で火災が発生、周辺一帯が海水で覆われ、不安の中、新仙台火力発電所に一晩留まり翌朝に避難しました。大震災から10年目となりますが、想像を絶する光景が目に焼き付いています。

東新潟火力発電所への赴任の目的はガスタービン発電設備の設置です。大震災により、太平洋側に立地する火力発電所が甚大な被害を受けたことを踏まえ、早期に供給力を確保する必要に迫られていました。7月に工事が開始され、通常、およそ3年かかるところをわずか1年で設置しました。まさに冬場の強風と積雪を挟んでの突貫工事。33万kWの電源確保に成功し、ぎりぎりのところで「計画停電」を回避することができました。日本人の底力とメーカー、関係会社の技術力の高さを再認識するとともに、作業員の献身的な努力に加えて、緊張感をもって臨んだからでしょうか、労働災害やヒューマンエラーは皆無でした。

東北電力グループは1951（昭和26）年の創立以来、「東北の繁栄なくして当社の発展なし」の基本的な考え方のもと、安全を大前提に低廉で環境に配慮した電力を安定的に届けてまいりました。一方、2016年4月の電力の小売全面自由化による競争激化、20年4月の送配電部門の分社化に加えて、再生可能エネルギーの導入拡大や社会のデジタル化に伴う電力需給構造の変化、さらには温室効果ガス46%削減（脱炭素化）など大きな転換点を迎えています。また、私たちが事業基盤を置く東北6県・新潟県は、他地域と比較して人口減少や少子高齢化が加速しており、今後、交通、教育、福祉等さまざまな分野で社会課題が顕在化していくことが想定されます。

そのような想定を踏まえ2030年に向けて「東北電力グループ中長期ビジョン」を策定しました。サブタイトルは「よりそうNEXT」です。再生可能エネルギーを含め、将来にわたって安定した電力供給を担い続けるとともに、地域に住む方々が快適・安全・安心に暮らすことのできる「東北発の新たな時代のスマート社会の実現」を目指しています。

新型コロナ禍の厳しい状況が続きますが、地域の発展に寄り添い、地域の方々の快適な暮らしにより沿い、皆様の力となれるよう取り組んでまいります。